校訓	友　勤　自 愛　勉　治	令和8年度 東中だより 第11号	発行日	令和8年9月28日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長　前田 徳三

【全国学力・学習状況調査（続き）】

本校では、教科の平均正答率だけに着目するのではなく、質問調査の結果と関連付けながら、本校の子どもたちの強みや課題を多面的に分析し、授業改善や教育活動の充実につなげています。今号では、質問調査から見えてきた本校の強みとして、「主体的・対話的で深い学び」と「タブレットの活用」、さらに「基本的な生活習慣」についてお伝えします。

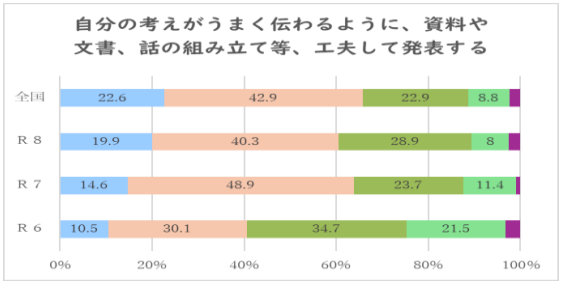
＜質問調査から見えた本校の子どもたちの姿＞

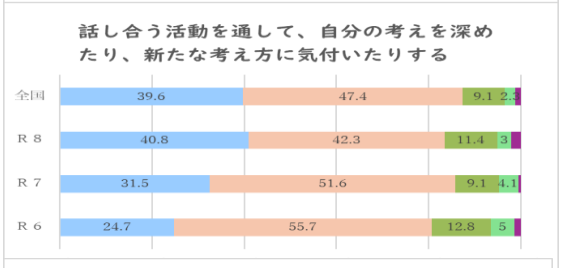
質問調査の結果からは、本校子どもたちの学習や生活について、いくつかの特徴が見られました。ＳＮＳの利用や動画視聴の時間が長い子どもほど、各教科の正答率や英語のＩＲＴスコア（※IRT スコアとは、問題の難易度を考慮して、一人ひとりの学力を数値化したものです）が低い傾向が見られました。一方で、タブレットを活用して情報を整理したり、発表資料を作成したりすることに自信をもっている子どもほど、学力が高い傾向にあることが分かりました。また、「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」「授業の内容がよく分かる」と回答した子どもほど、各教科の正答率や、ＩＲＴスコアが高い傾向も見られました。さらに、約９割の生徒が、ＩＣＴ機器を活用することで「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答していました。

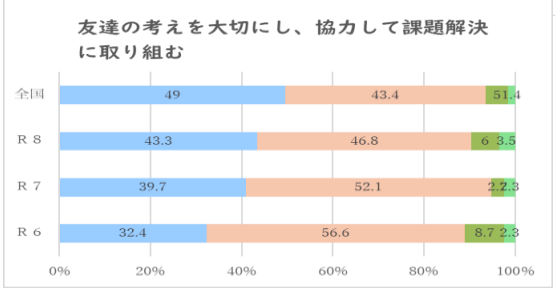
＜主体的・対話的で深い学びの成果＞

本校では、学校全体で自己調整学習に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めてきました。今回の調査では、「自分の考えが相手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表する」「話合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする」「友達の考えを大切にし、協力して課題解決に取り組む」という三つの項目すべてにおいて、本校の取組の成果がうかがえる結果となりました。

また、「自分と違う意見について考えることは楽しい」と回答した子どもの割合は、昨年度を 10 ポイント以上上回りました。これは、子どもたちが友達の考えを前向きに受け止め、互いに学び合うことの楽しさや価値を実感している表れであると考えています。







授業では、自己調整学習を含め、対話を通して考えを深めたり、互いの意見を尊重しながら協力して課題解決に取り組んだりする活動を大切にしています。その結果、互いの意見を尊重して協力して課題を解決する姿が多く見られるようになりました。

＜タブレットの活用を「量」から「質」へ＞

本校では、週３日以上タブレットを活用している子どもの割合が 97.4%となっており、全国の 78.4%を大きく上回っています。これまでの取組により、タブレットを日常的に活用する環境は着実に整ってきました。

今後は、活用の「量」を増やす段階から、「質」を高める段階へと進めていく必要があります。情報を収集・整理するだけでなく、自分の考えを可視化し、仲間と共有しながら学びを深めるための基盤として活用することが重要です。「タブレットを使う授業」にとどまらず、子どもたちの思考や対話が深まり、学び方そのものが変わる「学びが変わる授業」を目指してまいります。

＜９割以上の生徒が感じている「幸せ」＞



今回の結果の中で、校長として特にうれしく感じたのは、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問への回答です。本校では、「よくある」と回答した子どもが 53.2%と半数を超え、「ときどきある」を含めると、９割以上の子どもたちが普段の生活の中で幸せを感じていることが分かりました。この割合は全国を大きく上回っています。また、「将来の夢や目標をもっている」と回答した子どもの割合も、昨年度より 5.8 ポイント増加し、約７割となりました。

教職員との関わりにおいても、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている子どもの割合が、昨年度より 13.1 ポイント増加しました。これは、子どもたちが日々の学習や学校生活に前向きに取り組み、自分の頑張りや成長を実感している表れであると考えています。

さらに、こうした学びの積み重ねにより、生きる力の根っこと言われる自己肯定感に関する「自分にはよいところがある」と回答した子どもの割合も、昨年度より 4.8 ポイント増加しました。また、生活習慣を自ら整えようとする意識にも高まりが見られました。「睡眠を大切にしなければならない」と考える子どもの割合は、昨年度より 4.5 ポイント増加しています。心身の健康は、充実した学校生活や学習の基盤となります。今後も、家庭と連携しながら、子どもたちが自らの生活を振り返り、よりよい生活習慣を身に付けられるよう取り組んでまいります。

これらの結果から、本校には、子どもたちが自ら学習に向かい、自分の考えをもち、友達の意見を大切にしながら、協働して学びを深める雰囲気が着実に育っていることがうかがえます。粘り強く課題に向き合う姿勢や自己肯定感、将来への希望、日々の幸福感の高まりは、子どもたちが学習や生活に真摯に向き合い、努力を重ねてきた成果であると大変うれしく思います。

これからも、子どもたち一人ひとりが友達や教職員とのつながりを感じ、安心して学校生活を送る中で、「学校が楽しい」「自分は大切にされている」「毎日の生活に幸せを感じる」と思える学校づくりに努めてまいります。一方で、今回の調査から明らかになった課題にも丁寧に向き合い、子どもたちの主体性と自己調整力をさらに伸ばせるよう、全教職員で教育活動の充実を図ってまいります。